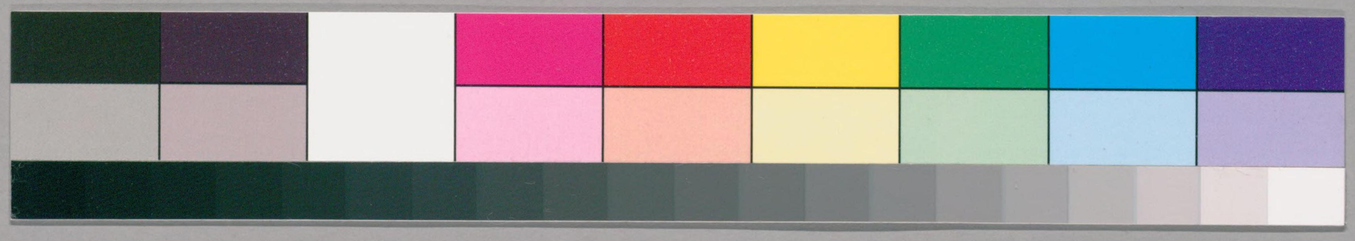
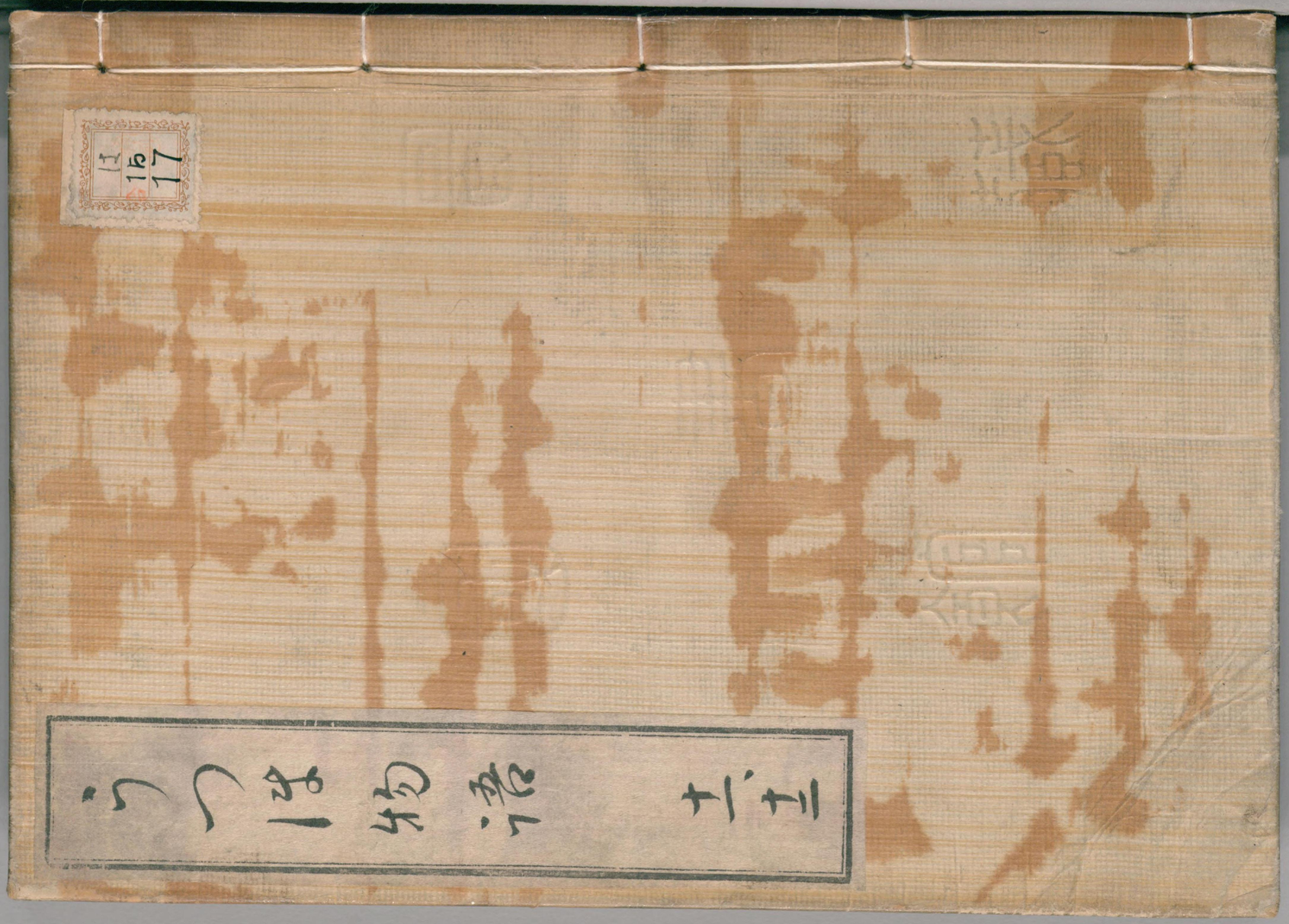




は15
17

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

宇津保物語

菊の宴 二止

十一

今板本六の巻ノ三

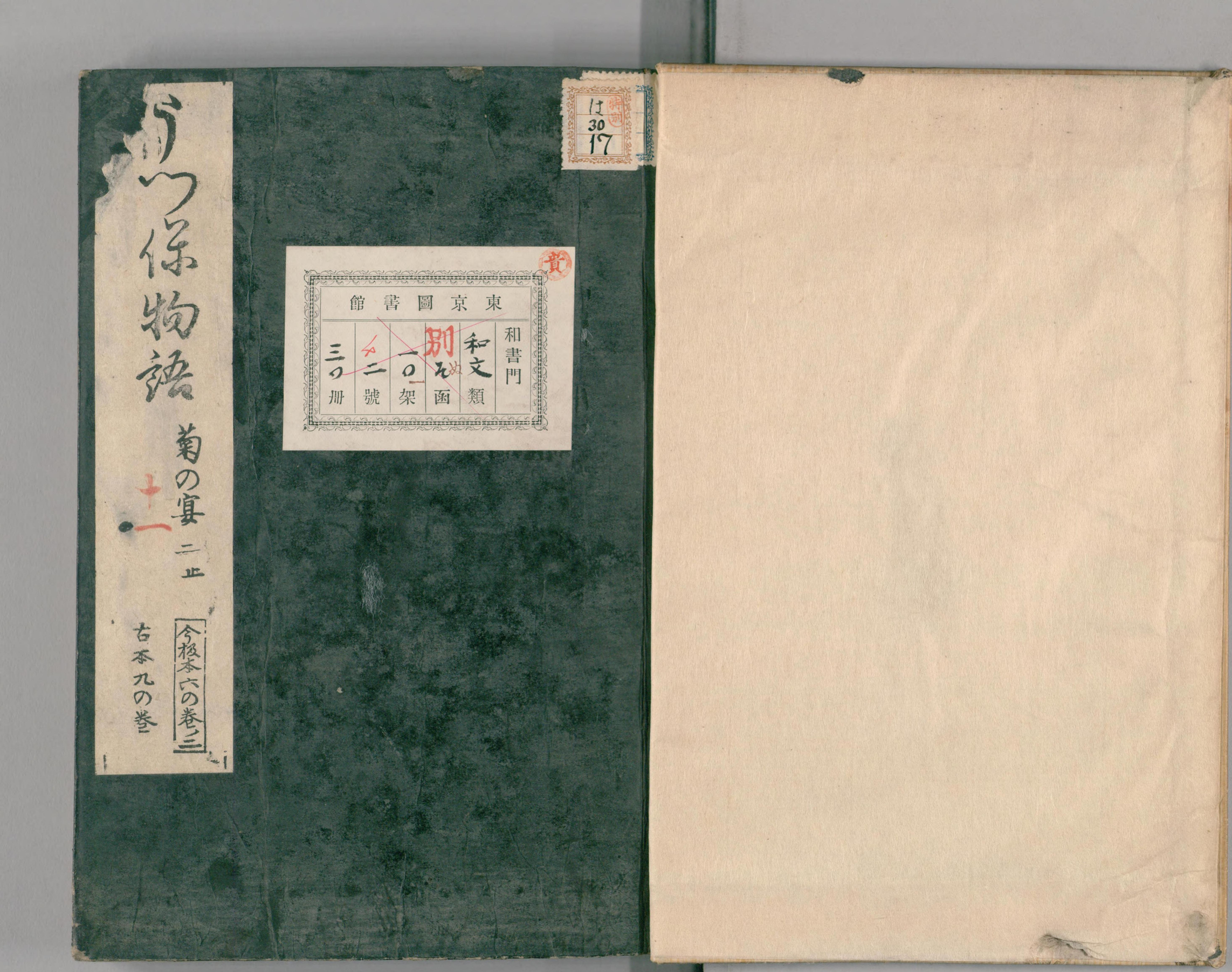
古本九の巻

特別
は
30
17

貴

東京圖書館

和書門	和文類	別	一〇一	二	三〇冊
		函	架	號	



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

東宮御覽

故柳原芳楚納本

ばしくなり人もなし。たゞ柳原此ぢうりそがこゝ
公めやもてくまうのがりなどもしきじくをしなめ
ぬぎてくいこゝにあるとあるもなりめり。大原此ぞ。
うしぐゝあとまうのがり給ともかくてさられさ
とのこそこそよいせしなめれ。おほはやうまゐり給
へ。あらさなうせめしなくやなどきこえ給ふ。ささい
のえいちふそふさてげ柏ながしら菰人のお将。とは
つひまくがくきてしてまゐり給。
きふよりいさゝれをしせむちく海乃ふよりが
代はめうそふのまれたなどてたくまつり給ふ
よもがひそくよりさ海に公あるとそ。こがひの山いさ

伊東藏書

菊のくん下 十

明阿云 同美さうの海なつくきれ

此説あるこの本

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　ガラス使用

古今集
世の中にたえてしまふ
なかなか

にもまかばもがなとおもひまうしまでに、それさへ公よも
うれたらぬ物よこそとくれ
身をれぜんかさへぞ、なれ人をしふ公りま
さ消世ふしれぜれば、いふせんくにかくりなし、志の
ここあめれかりこれ御ゆへのこうぞへの句ふ
さうなもり
これなみれなるぞれなりつて花れ袂
乃ふくもあなかれ、ぜんそしさへとそなどこと
え給、頭中将
源川うれくながるいまほへやまれをば人乃
たのまぢからん、せそのめるくはんれとがめらるかん

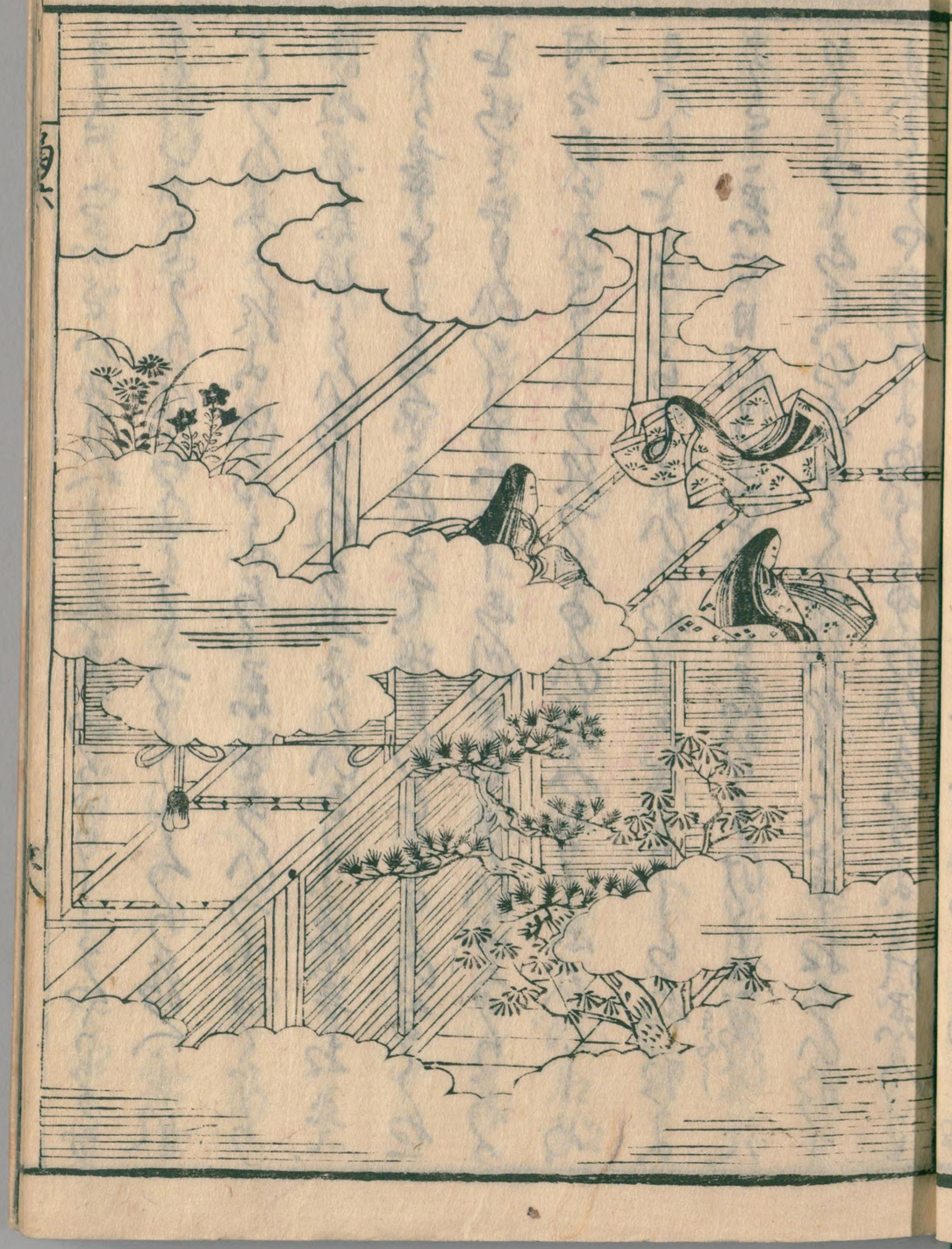
やれどこさしかくり、源中将
ありそ海れまきごの数ハしをめれどかなふ
ぢからのあら浅こそみるしとふべきことそあが
え孫、ほかくりなし、御ゆへのこ乃見れたらまふり
さうをみ給て、かくきこて給
わがごとや其れ山邊をこうるしんなげされこの
めりうぬひりなし、山ふをみぢめるなりそと
重などこそて給へどいふへここて給ハど、源宰相
りこそくまぢみくまとをなりなりじさそりや
人よをよばねとこむ、あやうへのらうすけ
あしぬを人よかよんぞくなりめれんわがあつさお

ちらとめきまゝとれこえまつりゐ候れとけれはとく
れしかくて源宰相ハ三条なりかハ乃有とにひろくれ
りしろさいへよもみ給うへよ間のりじさらめれしつ
き給ひり。まとりけひとめ十四さへりてひこどくまて
まさ心人りれくいうしさなりふうくおれしれそちら
おもいらはゆくもへふもらさまとうきさぬとなり
とも。そもさらとそそなくめといひ契りてずみま
ゝり給ひり。ゆのこ一人女こ一人女子ハそくさみれ
乃うぐをは。まさこ君とうふまさおさみをいちくぎ
えうさと給えん給ひてあえはなるて屋しるい給ひ
ま。屋のうちゆさうれいへをはくまうことこじなりの

ゆれ屋よりこしもの人ともさうことして屋給ふま。
このあてこの如ふ知りかしつ給ひくまをとしこうの
のち給ひをもとまれかなしき先このうへをもしら
てう乃屋にうりりおくよく目とりふつきてもまふ
らひ給ひて年月よなりぬ小舞ひなけさまふさ
ゝ給りなし。きこく給ひくりよなりぬ屋れうちやう
屋くこはまし人もくなふなり。つきふみくさはわたり。
屋よまふしけり給ひこれめ花れ女もひしよゆれえ
もおしさにハとし人やゆとづまし給とやらくしよ
うはりハかきよやこゆしとこのことまさう。後をなりし
てれかれとうり給ふ。其乃あめつまくよふ日おま

ごとりてぞうぎてこしらう。史君をこひけくうちな
れて居まつるをうてぞうぎ河ぐしくかりしとおも
かえてぐぐのもとよこをうみとおくなめよぬれる
をうらせてぐくかくれてあそゆつゝを給。保宰れよ
　　長安よりいれふるれ乃りうれいぬるくこと
りぬみかりそおりかきる。これよおうぬやといみぐ
なしうなんぎくも海さごいかれしうれとうれこ西め
なとてたくゆつしをまつり。宰れぎよりよおりふら
むとおりかして
　　もとれ見し屋ど後ぞおりふうぐのといなふく心と
しかりものうち。なぞのどうれおがしうれぎよりよと思ふ

ものうちるむ。よきごはかずしら母ゆやとのうち後
へとあり。きこれかこみ給て。なうごをながして屋給
かどよ海さご君。十三累とぞ君十四累なり。やき
ご君れなぐ屋しるひ給しのこ無しく。おそびもを
を。ものをくりてちふ頼よてく君れまれをおりかし。時
よいあそびしよ。かこ時ちらしそこし後ごふうし
き物よてそ志給しう。いまは人をまた海ありれなんど
そふうひ給ちぬハ御ことをおがさぬなり。おやなさ
んハ御をうれくぎへりれ。えもれそぐつきうちも
しなことうくこそあなれ。まれこそさるべき人な
ちれなどおりかしくもく屋まひはさそ。だぐよかり



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

うれりなし。まゐ川ご君のこひしく若く給かりく
おもむ
こくだにもゆくしれ君とおしをこゆきぬ
とみかりかれしさ。おもくさ
なるひゐくあそびし物をにかどり乃おこ
の池はおとりゆくなるとてありけれゆまは母君
れとへどもと　かれしき物紙　いまこ川乃
れにけきを　むすびはく　れし此子とすく
おくびみて　うきもろれも　もろともに
ふちにもせにも　をこれしと　契つし物を
川乃まに　花乃いろく　されまがふ
うつりあく　あとこれなを
なりゆけば　あく海河紙　おりゆれはく
ゆくしのうせ　をとに当に　ゆそやすりと
まちらし　書刻と紙は　とふとり君
うけやこゆると　中のこ法く　まの川のこ三けさ
おくやさしれ　ふくかれと　まりひ法く
月日のゆくも　志く思まに　ふさにゆひし
るでしこを　くるあさこれ　うれなでく
いつしかいろの　うきれこき　さうりをこれも
みむとのみ　おひしれにふ　うちへこく
ゆやをよひて　なきためし　うくられなねの

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

のてうにほうひをつくりて
れおどりてよめるうた
ひと人ふたりそこにあるものにのりてゐ
てあそぶ
ゐてまうでこしかばこの小方れ
いと御方ぐしてまうでたまへりけ
れば十二人ばかりこぎつれてこ
ぎいでたまへるに一の舟に女御おま
むこうの岸にてまうでたまへるに三人
かりよりてまうでたまへるに女御
かたよりかくなむ
ひとりのみ
ながめやる
ひとりのみ
ながめやる
ひとりのみ
ながめやる

長柄摂津国西生郡
古今垂五 是則

わしむる雲のなかれのたゆへりはなふとか
ぎくそうくひとのしるたゆ有殿の御かた
雲をわしむうぐひとの祿をきくなかれ地の八
の花そさうりるるしきむ姫きやう殿
うらひまてなかすのたゆに屋とりしてた
なのおうりやひさしきとしむ。こゝ川ふくさ夏りん乃
しものとの
ゆかりなまぐさ雲のよそなからこゝ川也
たのまむこのたゆるさ。とうさいさう殿
どうにのこきてつる物紙こゝ川乃たまみるれて
のこもゆりやうれ。中将殿

きこうたりたゆ川なまふそ見川のたゆみ
つくはもわしふなやとりをむ。なしそこれとに御
たゆへ志給ふかどよ。雲文よりまくきてまつり
たゆくと稱くかはごとにたちふともまぐれを
きとはたれましもせじ。あくこやうちまひまそ。
たくさ女れくもたくれどくく
みそぎよはるげきの花をちるもぬし世屋へ
雲たちふかぜのさむさぬとて女のさうぞくよれむ
まつらに役をやくのかりてまつりぬかくてなふた
にいぐ給かどに。幾内山陽道南海道のぞ西ゆやう
どもつとひて。かりしまれべき事と。ありがたくなりしろ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

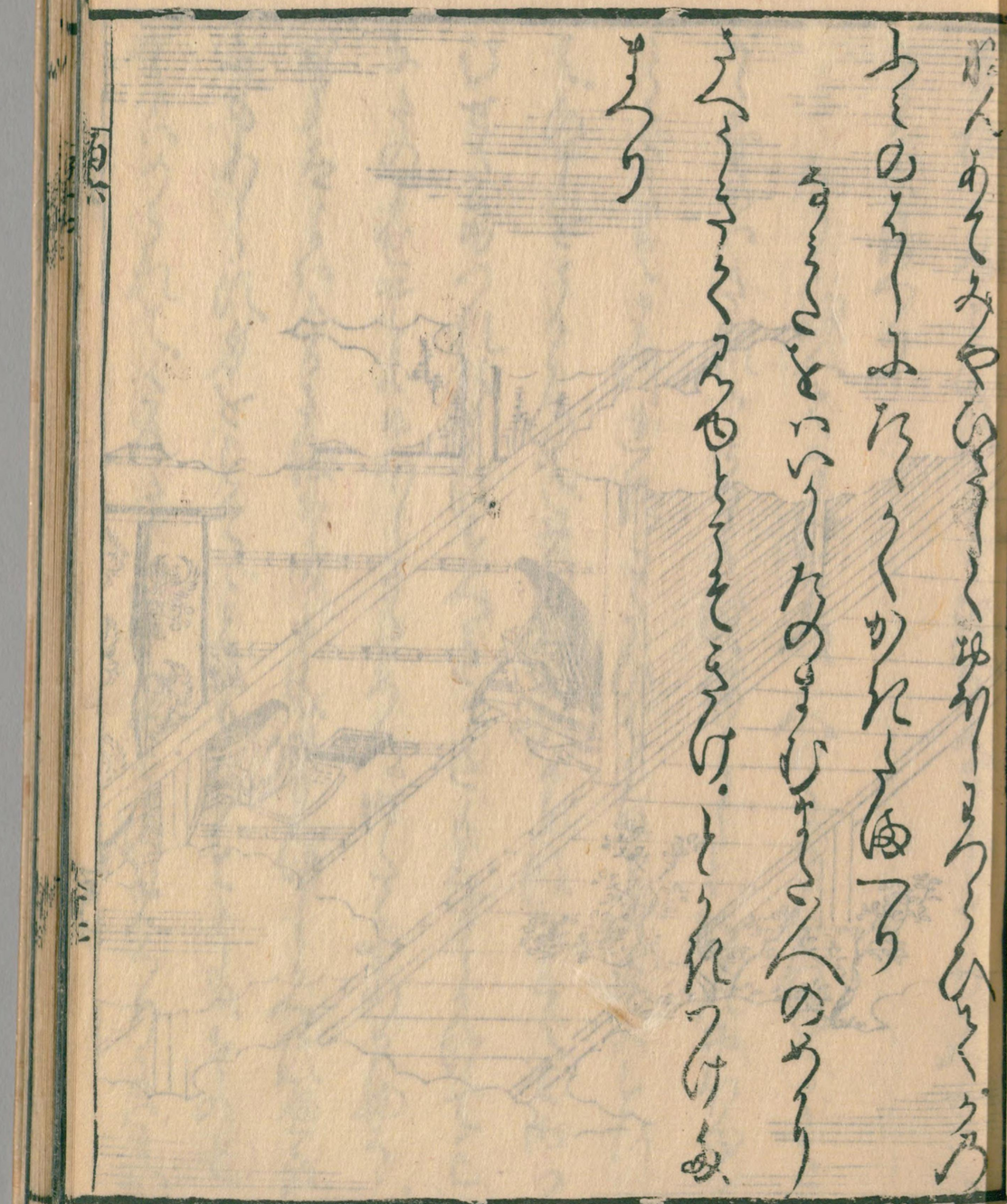
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

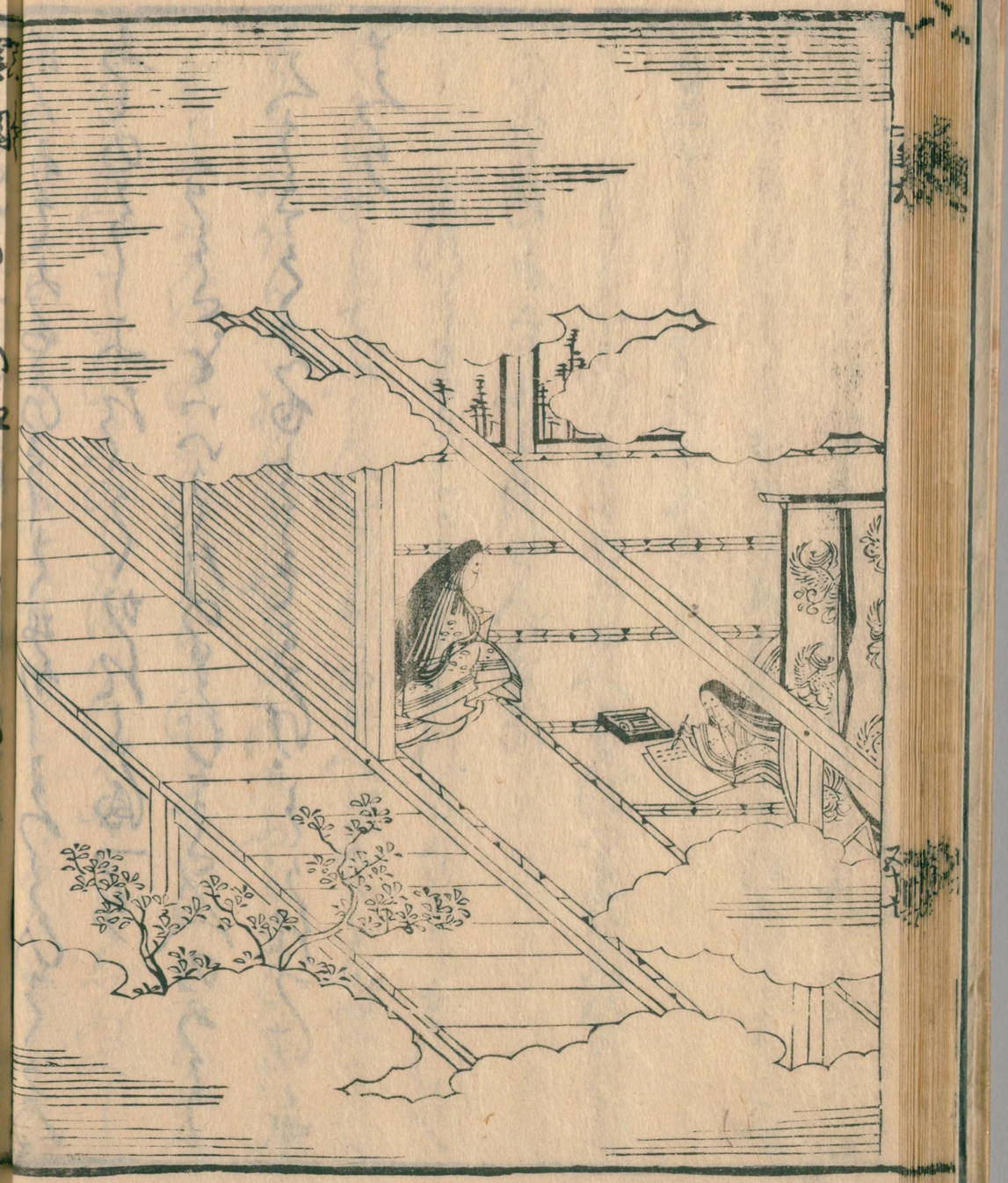
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

うつほ物語 巻三十 楼上下

やうつもりぬるものの、七夕等よ
つまどうち過ぎぬるに、比叡高雄修経
ひぐらしをおもふもの
ひ、なみだをうちこぼしつつ、この事ならず。天地（あめつち）神仏
うち祈りつつ、深窓（しんさう）あけたてしつつ、
ん、ものうちのみして、おもふ
供養 布施 供養 優
歴天（ふみ）ども作らせ、やう〳〵
うちもうちもうちもうちもうちもうち
七日七夜（なのよ）のつまもの絵
七日七夜のつまもの絵
みうちもうちもうちもうちもうち
つまで、おもはぬ
うちもうちもうちもうちもうち
もうちもうちもうちもうちもうち

なかよきちえぞ人の事わかれ之のさうり。あれ
はられのいさなりしてあられなりしこと乃
うさそくきこえみちあけくいらぬ乃ものと
りしこれなしかくこそのことこそこそ
きんめのとれとうさあらせて小のうと
あき風乃身りさむけまはつれをなる
そらゝきこ
みなんをなくてちりぬなやさきこと
めれと
むらくしれなく山さとのゆりて里ゆひ
りしかなれくぬるさゆへなり。源宰相あれこと

やくとのひきられ哥れるをすまあやまりしかや次の君同しく文字こそれなり

そてくかりすふりとう乃中ねるうくをし
がまこりりて。北なしやうなることてうつりはるひ
えはじふく源宰相ふ川きくいつこより北やや
との給ふ。北中ねやくとのしひきうるふやれ山を
うらなしはなる。源宰相うちうらひく。
○北れしもれをれかりなくせともかひれさ山は
れとまさこれ。れりしうんりしらたりて山は
とふせんとて見給り。これいへ乃うれのりみら
うくれなるをう先へしうふしきとうけく
まてしうとこも。源宰相なるけあるえはり
こふそあくむとて。まれあしたりとく

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

とも神はぬ是なり。そこくさみ
さらよりまし海かき絵をつくなくさめし屋と絵
うくてそ此とくうれしきとそこそこれ是うちる紀つて居
給へると中門おしはけく二所なるひとち給つを
み給てむくつけくこれまうりよはりつゝんおなか海
人くいひそとそこそとらせつしていま給ぬひとく
ちくさちより給へるさんかふ人はをむしものうとと
かめすものこちくよりて宰相
夕菅のこそかれとれはなりかりくたちよれ
とまふ人もれしこそのわりてあ給ぬこれしあこそ
ありまへる人のこあれ是。海もいらせを宰相なしとう

箸杯こまて
なるくれ

ものくさ海ふ人もれきりしうさはひとのすこしあふ
所うとく
山ひこもこてふ宮掛絵ゆふられしさんの見な
子人の部のりはおやしくれとうよはなまてうを海
ひはし給ふ。ちふ心なき人ぐくすうをやれと戸給ふ
そこくきこまうひるこひれき給ふ。ちこうみのかれは
みを給ふを。いくつふへきうえさしんうそ。ぬまし
といさすとく。ゆくさくれうれ
たひとくはまれもうれしなよをくしとしらぬ山ち
まいりぬとせりへを。ぬれし山路ふとうはぬれ給ひし
てしきしけうはりて。それをこよ河よりつき

六十三

尾張のくにの
和名抄史記云
廉頗強飯斗酒
食肉十斤○注飯
音符万反亦作餅
飯強飯和名古八
伊比
枝〻尾張名の
強飯の事也
命婦僧正の海
人藻苅云八月
朔日小花粥内裏
仙洞以下令用給
良薬云〻彼粥
調法薄を黒焼
にして粥に又合
けるとあるとこ
ものあるべし

とてくりみらぬるしきそ、ものうべたゐりまそ、
くさ〻をしてかりれいろのこゑ、ゐとまつ、れ
よりわきてこゑ、きこのさゝつしけふかくれ
そいてし給
あさ山よりみらとられなるゆへとそこふと
くるとしけくかりれ、源宰相
あひといへとうるとりみらも秋山紅葉はまて
すこ[illegible]とれはるされ、ふのうこ
秋をてはきくもゝひなし、なとしてとまてしきもこせ
ふねをはきくもゝひなし、なとしてとまてしきもこせ
をあやしくゆしきそらろれとはみ給へと、ふ

雁

仰せ

ふのいうしけまそ、それをそふゆやあらんえなりひ
やり給ひて、源宰相ふいてゝみ給ふもなくはみて
をれん中ねさしれものまふかれうしむしやなり
うくひらをきくとれくとりみらはなとろ
ふし給へ、宰相いゝやなかなとれ、ふろうて
ゆ身もいてゝとれとしれあられとうへのなり
きんうもきこ給、雁そしとしこをもう
しなひてしかはいまはさるふ給
とふしうろうにすくさいせくノ
きろ給ひふしひまうりつまとひ
そひくゆもわ雨ろうれとうの中ねうらはひて

廉

不

六十四

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

特別
は
30
17

今案菊宴為第十六巻乞
あてこやろ事詳也

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

宇津保物語

あて宮

十二

今板本十七の巻

古本十の巻

特別
は
30
17

貴

東京圖書館

和書門	和文類	別	一〇	二	三〇
		函	架	號	冊

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

東京帝國大學圖書館

故樹原芳埜紀本

うくて、おなじ家東家にまつり給ふ。十月五日とさだめ
まりぬ。ことことに給へくまゐり給ひしことゝ給へりなし。
その中にも源宰相(げんさいしやう)申給せしことの仰(ぎやう)給ハ如しおぼ
えて、あまじ志めぐしとまゐ給ひ給
ひしことどもをれつゝ孫たちひとりれ侍くしき
ことゝ給へり。御髪ゆられ給へり。
源侍従公ゆりたちひくふしおぼえて温(ゆ)をあ
もたえて志めぐさよ大夫いとうるはしくなりてなど
いふがひなくなりまさり給へるを、おとゝとそ見給いとをら
りめせバ、なみなりけとおもふをあまたものし給へど、
中納とそことをとことをハ家ゆりをしゆるされなど

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

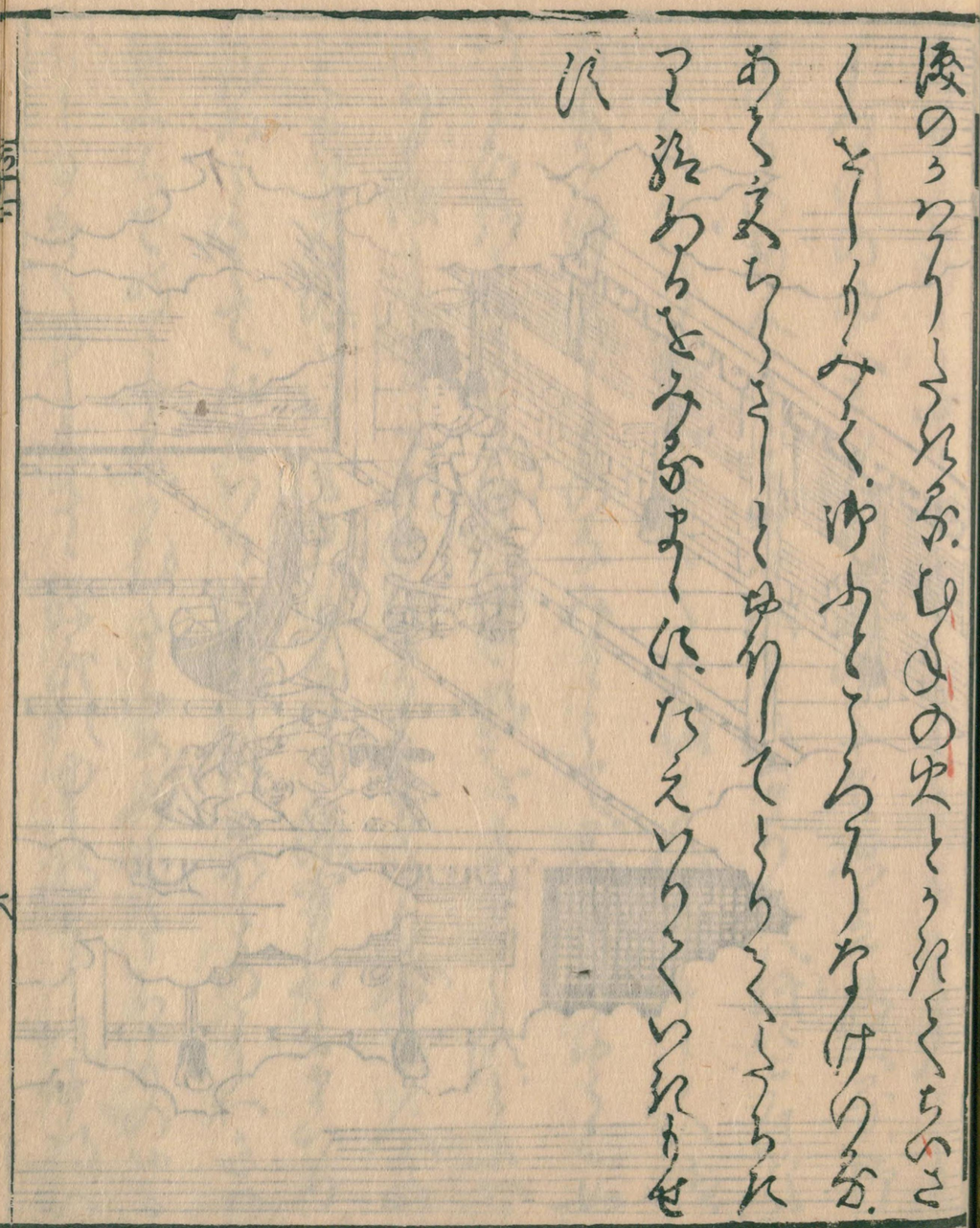
ことしれことしてくるじあるあやしきさいし
うりぬ色きさきとて、喜けちしめより、人はくし給
こくこうきく海のきうてやむことなれかしたら
めゆきとうて、山姫とし給つる後よこそあれとの
給、くてはまつりらくなりぬ、はせことはうらい
をうりしきさうしそうせしまはしも人ゆと
れ四十人、家四位の宰相れ娘、かしこけよあまり、
しきよれ有しりてかれ弟ことしれむ川、人の
いふ人をうことみなよ、年二十余のうちうち
はやれかれぬひと海どはこれあるなまくハ山人
ゑ位のむもめ十五さいれうちうちもなきゆと

なれこそしきやうそくうちあやの前なれいつえよさ
ねのうへ乃きぬまうれうへのもう海はもせれもう海
あやのあとめきうり、下つ人ハ人てゆりのきぬハま
ぜもひりこゆまきみるねさつしのひもめひ
すまし二人みなくのことしかくてきけよなりて、
御車りそれことし、は徒の人きれくそうそくきそ
目のくるくをまち給ひしに、なるこの中ねのはもと
より前後のをれくられもとよ人りちんのさし
くしよりしめて、よろ川はそはりくしれくあ
をの御てことよれはをしひさいしもとゆひ
えるもくしよりりしめてあるなくてはくこうう

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

ましくかなしと思ふ事ぞ世中はいたうなきものな
里かくまつり給ぬとも、かねりと申りけしとあるつ
いたうゆりぬくに道りりせむと申りひていましれ
里源が拘とかしまつ川みくおさしくなりぬる
とかねてこれをしふ屋ぐいかそこれまつり給たん
に[とり]とをつかまつらむいさゝかなることを厳の
し給ひてこれまつらぬいなれをやむことなきこ
とにしを御うそさらむかをなるぬ身にしふまし
きことにしそめてなかがあやまちにそあまなと思
ひてまつりたりかくこれつとひて作つるなさしせて
時なりぬとさらしめれまくよ文ゆとくくたりあ

百済

くくてくまる
高麗藍ハ即呉藍
之和名抄

ひのいつしてふして[ぐ]鶴をとさて給へとかひなし所て
文ゆとくのかくゆりしさつさしろ川の人の夜いし
せしとのこしふかれかむことなとゆりしくいさし
くかなしきことをのこさらえつまとみたりを
きくいまゆかぬちろなりしかくこうちて給
わりあとをしまへきものなきこ川行をしも
あるものとしるむなとゆりしいりそやいと心
しくみ給つ、ちろうしとは心抱りしいと行しと
なとかれそこれかの君にをれとの給、岩東風
ゆくし文書てらひさなくれりしまし、かれ君を
いふかひなくなり給あるものをとこそも、あてうの

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

とくにつかはしまいり給つり。宮る伐ちてまゐるとの
給ひけれは、いにせんにさふらひ給ものなとしく給
そ。なりすゑいなとうあさし。色まつらぬ。大将目此
おさまし色やまひにしつゝ給らてまじさしかく
なむ給ふ。よろ川の神仏り親をそ給まと。今
いさのむへくも給ふ。宮の給ふ給ふ。あわせ給
をつかうまつりぬ。無くみてつかものをさねさせ
朝臣もさういふなりけやしう人のあひしとも
なとかくらむとの給ふくて二月中の十日年の
いしめのうし三人出来なりに。喜宮の君さらにつか
ねことにはなく宮さしぬより殿上さらさられう

金のこさうさうさ
のけしもの金椀の
ものとやしこうけ
しくて筋つくし
殿の毛のことあ
つくれは毛といふ
そをとの世にハ
毛形をもいくり
らの次ともかしの
錦のいとさうなる
沉木のさくる流
金のはちゆうを
といつても此毛ちち
ちとといふ 同

きまけの誤にて
もの事物とわかて
といひけるもを
つくれ

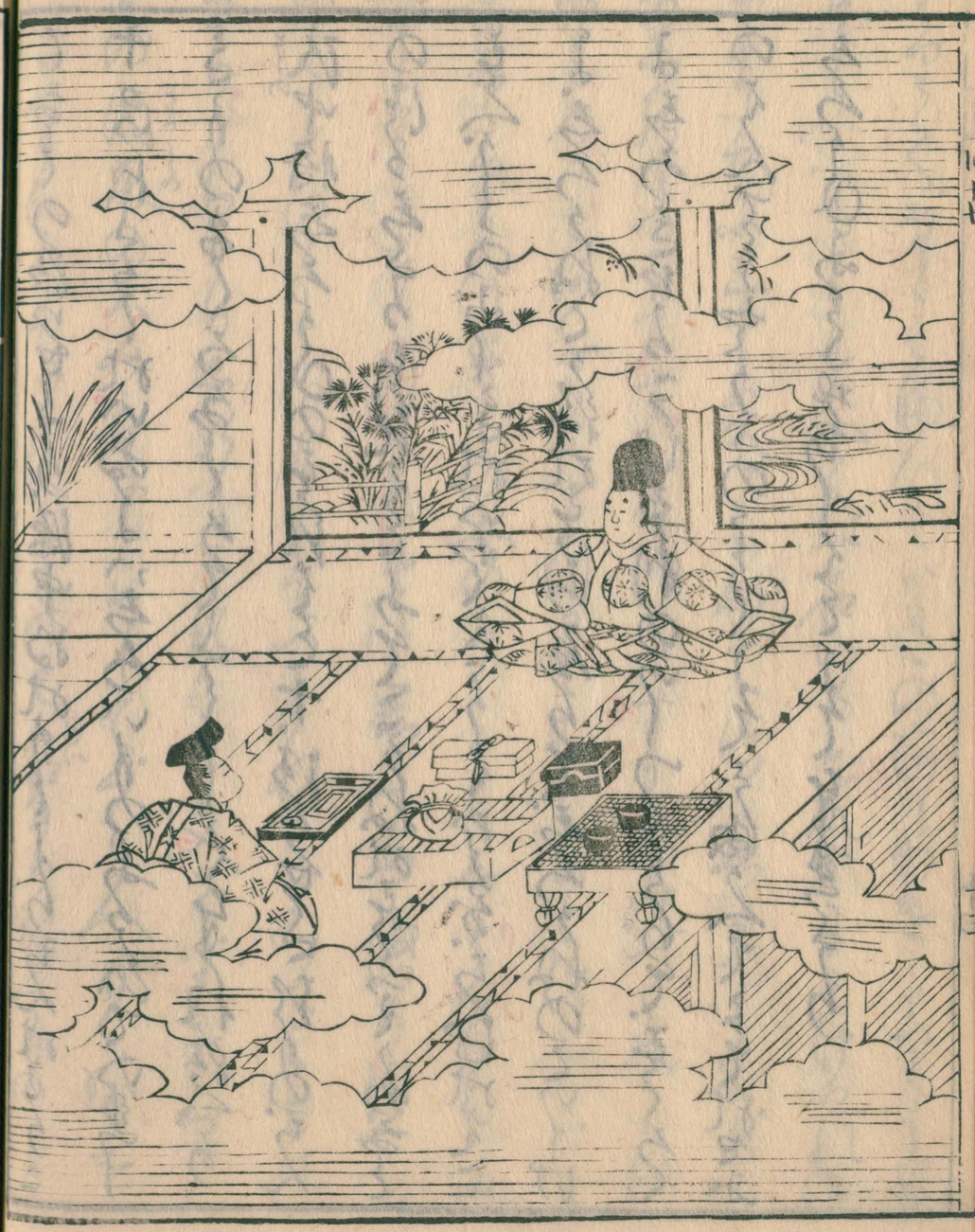
ちんにくさものおさむしとあれそよれありなりとそ
殿にゆかしなれ給。宮のにたいにいかねのこさてり。
こうねのまうちしろうしれゆしさ三年。こうしれと
きにしゆのうちしきは出ふまうりうしものかさ
ねさらひわりこ五十ふりこ五十かひりこハ
にしつくり志給。さくれは殿につかうまつりや
うこもにあわせ給へまいつかうまつりまなきへものハ
まてこうよりいぬ四石ちらいさ海されきれ
十ゆとのきりくろりしつきさうなりとなとを
まもへ一人三寸ひりれまたれのもりにの
うしものすしものかはしものこ

中ゑこの紙
られ檀紙にて
世にまことものの
くに紙書紙と
つくられいふる
同しものく

もるとく、ゑしくを海ひといきのほしつをしろきしれ
さしとももりをへく、一石いりそん十よさけいれこ
てりせよ三十兼ゆえ海てほくほしへしそ、多く
のしれしつえて十、ろほさすまうれいく思ふ海
ゆえ乃りえ、ほなりえ、ゆりりえ、ゆりりえ海てなとほしてごて
よしてるとりいきこの、女のこりそく、しろりえ海
なと、ゆりしきられしり、ゆしく思ろり海いり終り、
ゆとしをひとしひりりてつく
なりしりしりしれしをれをよへく、まさしてこ
りの酒屋のえみきなとめして、ろへ人りく味をを
をれつりいりて、ろれいしれそのあれりり、ほへりのこと

てなとの給いせしり、源中ゑれりとまりちん、れりこ
十りいれしりれいゑよは、しろいりのふりひていまし
きりのゑくろなとめてしくしてをれ給へり、
況中将しろりゑのをれをと十、ほしをぐをれりのちん
のほりしろりを紀をこふてこりねれをくをりめをと
をへがしのりきれいゆきりしりりりりがらびれをこ
よ、しろりねとり孫れをしら屋りて、しろりねのこりけ
よしろきなるこひる利のいしつくりて、をくりく
のをんてりゆりくのとしくしそをさ海りへてこてれゆふ
しろりゑりゑりゆをしをしをまりり

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

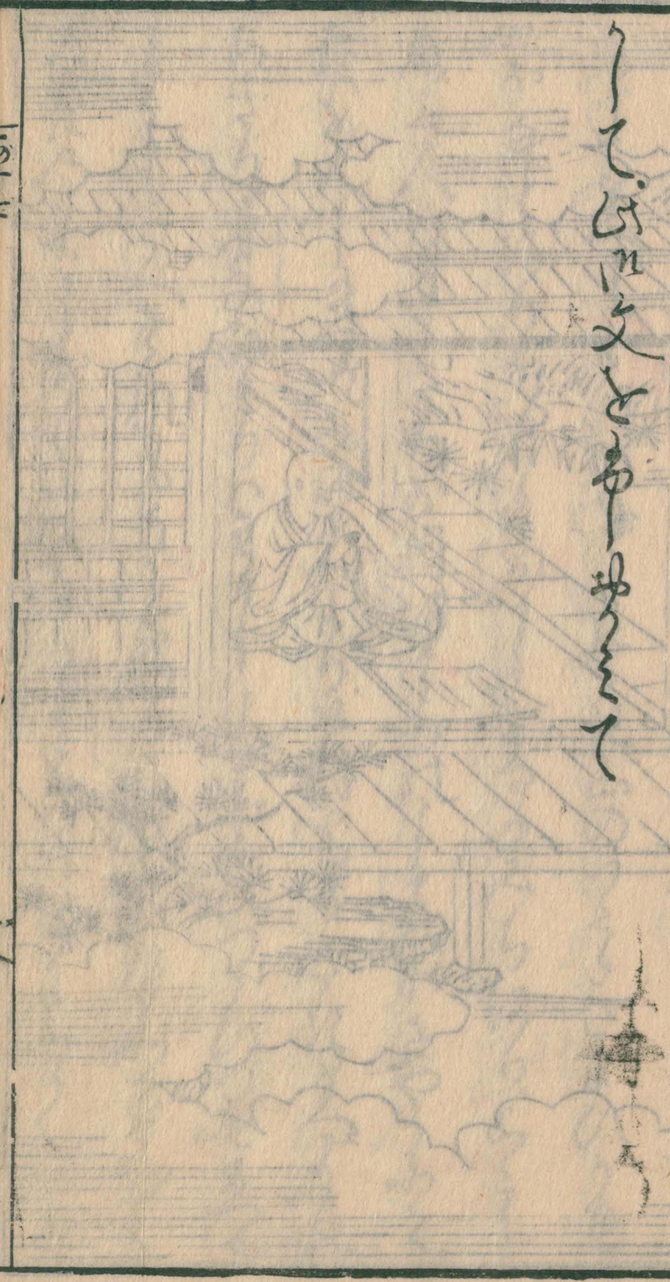
ガラス使用

まちしたりたる海うけ。はうつりこれう海うれれ
うしのゆかりくさふしひかるとなむものとれをれさ
里せいとみ給ふるときさて給中将ふらはつるなし
をしらしたりたる海かけきくはせうそこいひよ川
かりは。内にをこ家屋上へあけまりて。だうちあそひ
をなまよこ忍いとちかれはつかねなれは。家まとり
給へなまよあくこ戒きる給つり。おないさとやなとの
給ひとはかりゆかりくはまくまとる。殿のかりをいつら
そやとの給。中将なるとて
つまてもうまうねさけはありてはしたるれを
やまりうなとそさく。宮乃御平

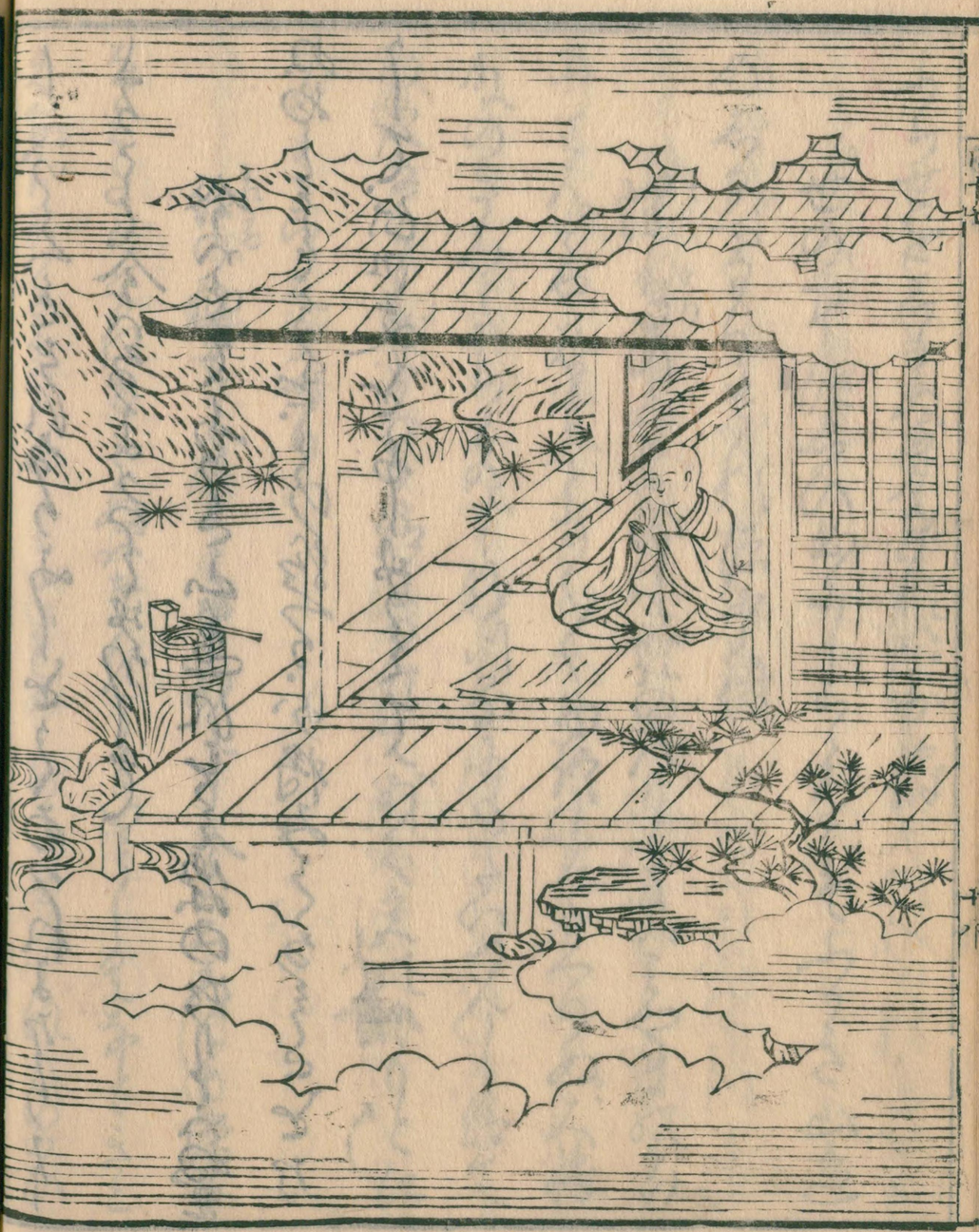
ありそのこわるくかりのさむまりは殿の
ましきをとちくまぬるなた大ね
春柳のいと海ゆしとてうくひをかりのあ
むまとちすやあるしん。源中将
うつりも屋のたる勢にちる殿のとのうれむ
きれはしきとやこむ。中将ねさねより
春へはたさやをめはとふうをこしひを
うをきれはなくかるを。た無湯作
しる雲のうまれをむけのはしきとや山のを
うせりおりこうし葬。た近中将
わとろひくまりうし屋れふうさしいうや

とし共こゝろいと共ほうり共れ十五人ありしかて人
庚申
うくしまつり。これハ神之殿乃江つかひ之也
十
して六さいかたらいとたかし。江ちらうら此義人武
アのせうぬたり。めてたくと大将の君ゆかりのなをや
或アかれハこゝろことなる人かやうれとえなくひ給
つしといふ。源少将ハ山まこりのあし日より。こゝをそらし
穀
塩
おしたらて。これを松の葉をもて食て六時まなくとなな
ひくなるをうしとしたへなけきを山とゆりしく
なきさまたるを。みしとしらりしめなりてゆしくうな
しゆぬ人なし。なかは大将殿のゆりふ山やあるせんお
られなとの給ふさ山をしのねつ。殿上人君たら

とひ給ふを分つくよおりしつくとひ給ふを。所中ね
源中ね兵衛佐なとハゆりしきりてあそひしものと
ゆりしとかねをよひくるなつくうてくるのをま
れりしたり。かねよろひくしひめんしてりのなといふ
人りなるをたとさぬハなし。所中ねあるかりしを
なとうくゆりもぬさ後りてハりのし給なる。さく
らうさ時ようふあへきこゝろりせねともゆやよ浴
うゆつくんとゆりふちろ。ふるきれハ忘りし海しら
ひ給れとかくてゆはしるをとをなり給ふ。ゆれ
しをなひとて
うらみまハなるされ川となれつて利まをを



ふうら世をそうらぬ男うれいかが将
　　世の中に　　と
乃ちうへうりをれ源中将
　　　



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

袖のかうまで　しろへとも　みるめりとめん
うたもなく　今はかひなれ　あらんして
名おそそのはかなしかりける
なとゝきあくまれとはをなし。なかく物のかなけき
はさしれまはまさとえを。なかくよつきくる代
こそくかりましらひをとれ。家れはりとへを海つを
なりめ給つり。おくは源宰ね小野よおはをづらうら
れ中ねはいまくしうり。をくはふをありくて侍給の
君をまつり給つり。目なくなるを給ふしうとはをう
そこよりておりつるはなりひは月日まそへて返
さり。男はよわくなりつくえたう海しをなかれ

いひ械ゆまをもあり
たくいともいへり
和名抄

はおてうまよりこきあく給
いねてもつゆまを海らぬ名れおはをみこ
りりてこそまへうりまれ。うくまてきあくてある
ましく物しりはさこえそ給へくさらむ。
よふも物しいてむこそいとをいこしうひとりを
きはいてやわる君れはしあよは男れつろしなり
ぬるもたもひ給へを。そひとうひのたいめむ給はし
をなりぬるをも給つるなむとさあくしらおそえ
こ給へはるか中にいかてと思ふこしへのほや
しをしられみとしうはつらしとは物え給へしう
とううちろわそくの給つることおこ給うくなと

ゆ[illegible]
文をもうあて[illegible]
のあ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちくいうちうくうちうてい
ゐこゐにをいやうをてうれう
えよれ方よ家我はいうち
りてうくいせう移くう
ありうことををちうめをうの
まうむやまりまことう
てそうまくふをはいうち
くむうちおそくくせ
くえうくとうううまりれう
そことくそ、そくこうのれ
こくとりされ人のゐさ

治アのゐうちをぬうこ
とて今とるうくるむちか
てうこよりてそうくし
うちをぬうこうめてそうう
ひくうふうそてまうこ
こ海りうこうよりれくえれ
うくのこぬうそれ下うこ
ひをそこにうをりかう
とをうよそれをくうう
よ出給つよたうてうこひをれうう

ちくいうちうくうちうてい
ゐこゐにをいやうをてうれう
えよれ方よ家我はいうち
りてうくいせう移くう
ありうことををちうめをうの
まうむやまりまことう
てそうまくふをはいうち
くむうちおそくくせ
くえうくとうううまりれう
そことくそ、そくこうのれ
こくとりされ人のゐさ

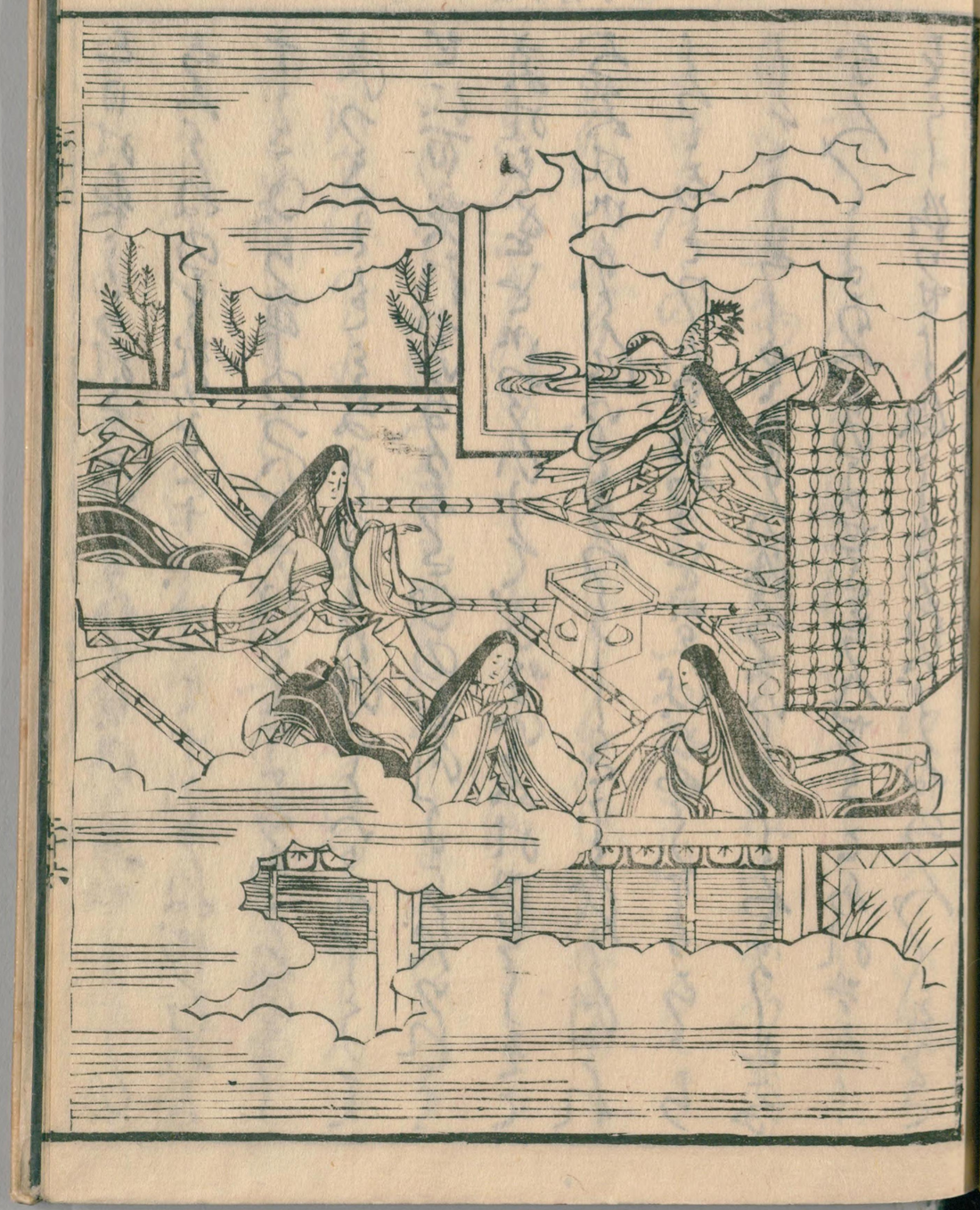
治アのゐうちをぬうこ
とて今とるうくるむちか
てうこよりてそうくし
うちをぬうこうめてそうう
ひくうふうそてまうこ
こ海りうこうよりれくえれ
うくのこぬうそれ下うこ
ひをそこにうをりかう
とをうよそれをくうう
よ出給つよたうてうこひをれうう

ちくいうちうくうちうてい
ゐこゐにをいやうをてうれう
えよれ方よ家我はいうち
りてうくいせう移くう
ありうことををちうめをうの
まうむやまりまことう
てそうまくふをはいうち
くむうちおそくくせ
くえうくとうううまりれう
そことくそ、そくこうのれ
こくとりされ人のゐさ

治アのゐうちをぬうこ
とて今とるうくるむちか
てうこよりてそうくし
うちをぬうこうめてそうう
ひくうふうそてまうこ
こ海りうこうよりれくえれ
うくのこぬうそれ下うこ
ひをそこにうをりかう
とをうよそれをくうう
よ出給つよたうてうこひをれうう

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

特別
は
30
17

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

は
15
17
特別

国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 は-17

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17